

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団 平成 30 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：職域成人における歯科口腔保健の普及啓発事業 ～健康保険組合における被保険者の現状把握と予防歯科の情報発信～</p>
<p>2. 申請者名：公益財団法人ライオン歯科衛生研究所</p>
<p>3. 実施組織：公益財団法人ライオン歯科衛生研究所</p>
<p>4. 事業の概要：</p> <p>働き盛りの 20～60 代で口腔ケアに関心を高く持ち、予防歯科を実践することは、歯を失うリスクの低減につながり、口腔健康の保持・増進、生活の質の向上につながると考えられる。しかし、仕事の忙しさや、口腔健康に対する意識の低さ等を原因に、口に関するトラブルが増えていく現状がある。職域において、歯科保健に対する正しい情報を伝え、知識の向上や望ましい行動へ促すことが必要である。そこで多くの従業員へ正しい情報を伝えるツールとして、(公社)日本歯科医師会より使用許可を得た生活歯援プログラムの質問紙票を用いて、歯科情報冊子を作成し、配布を行ない、参加者の歯科保健知識の向上と健康行動への変容を評価することを目的に事業を行った。</p> <p>事前事後 2 回の質問紙票で回答データが結合され、同意のとれた 626 名 (男性 559 名、女性 67 名、平均年齢 44.3±10.0) の結果、健康知識では、歯周病は糖尿病を悪化させることがあるのを知っている者が 33.7%から 49.7%と有意に増加。喫煙をすると歯周病になる確率が高くなることを知っている者が 37.9%から 45.2%に有意に増加した (p<0.01)。</p> <p>歯科保健行動では、就業時間中 (食後など) に歯みがきをする者が 27.5%から 32.7%と有意に変化が見られた (p<0.01)。また、歯科情報冊子を受け取ってから、新たに歯科医院に受診するという行動変容に繋がる回答をした者は 626 名中 109 名 (17.4%) という結果であった。生活歯援プログラムを用いて、歯科情報冊子を各従業員へ配布することで歯科保健知識の向上および健康行動への変容が認められ、今回の情報ツールを用いることで健康意識の改善や受療促進に繋がることが示唆された。</p>
<p>5. 事業の内容：</p> <p>某健康保険組合の 10 事業所、従業員 2,055 名に対し、正しい情報を伝えるツールとして、(公社)日本歯科医師会の生活歯援プログラムを活用し質問紙票の実施と保健指導として当財団で作成した情報冊子の配布を行ない、参加者の歯科保健知識の向上と健康行動への変容を評価することを目的に事業を行った。</p>
<p>6. 事業後の評価 (今後の課題)：</p> <p>生活歯援プログラムを用いて、歯科情報冊子を各従業員へ配布することで歯科保健知識の向上および健康行動への変容が認められ、今回の情報ツールを用いることで健康意識の改善や受療促進に繋がることが示唆された。</p>